

## 青年研修会 in 福島

余江雪央ピースエッグ事務局長が参加しました。

三月十二日、十三日に福島県飯坂温泉で行なわれた青年研修会に参加しました。一日目は平和委員会の成り立ちや、どういう組織かなどについて学び、戦後平和運動を大きくするため、日本の各地で自主的に立ち上がっていた平和を守る組織を連帯させる役割を担ったのが平和委員会だと知りました。

また、平和活動をライフスタイルとして考えるというスタンスは、今自分の中で一番追求すべきところだと思いました。今回の研修会では、「憲法9条を変えさせないためにどうするか」という議論のため、早稲田大学大学院博士課程の馬奈木 徹太郎さんを講師に、中国に未だに埋まっている毒ガス兵器により被害を受けた男性とその家族のドキュメントビデオを観て、日本国憲法の成り立ち、戦争の歴史認識、外交・安全保障の在り方、日本国憲法が国際社会、特にアジアに果た

す役割などを聞きました。印象に残ったのが、戦時中の日本の加害の事実があまりにも知られていないという現実でした。日本政府が加害の事実を認め謝罪と補償をすることはもとより、日本の国民全体でその事実を認めることで初めて、日本の戦争は終わるんだということを改めて思い知らされました。憲法の前文にある「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼し、…」の一文の中の「信頼」、平和な社会をつくる上で重要なものだと感じました。グループトークでは憲法をどうやって守っていくかについて話し、それぞれが持っている憲法に対する思いを交流しました。最後に行動提起として研修会で得たものを各地で討論しあう場をつくって広めていくことを確認しました。

(よえゆきお)

## 日本平和委員会中四国ブロック会議開催3/26～27

岡山県からは12名、全体では70名が高松に集まり、各地の積極的な取り組みが交換されました。参加された土屋篤典さんの手記を掲載します。

情勢や組織についての問題討議では、国民保護法制の計画が自治体でどうなっているか、3・20国際共同行動でどんなことをしたかなど様々な報告があった。憲法改正の動きに対して各地で9条の会がつくられるなど元気をもらえた報告もあった。また、青年から今年岡山県で開かれるピースエッグを中四国全体で盛り上げたい、そのための支援をお願いしますという訴えもあった。

被爆・敗戦60年ということもあり、これから意味の深い行事がある。広島での原水爆禁止世界大会は50周年、動く分科会は呉と岩国が両方見られるように企画する。ニューヨークでのNPTの集會に派遣者を出すことなど、どれも意義深いことだと感銘を受けた。

会場の高松市民センターには、平和記念室があり、1階のフロアの一角に高松空襲についての

展示がしてある。単なる空襲だけの展示でなく、中国侵略のことを取り上げている点がよかった。戦争の流れがわかるように工夫されていた。その中でも、空襲の被害について人数のデータばかりでなく、高松市のどこがやられたか、具体的な写真を展示しているのにも驚いた。市民から寄贈された実物の資料の展示もなかなかよかった。岡山空襲についてもこれくらいの展示で伝えられたらと思った。(ひじやあつのり)



松尾高志さん講演「米軍再編計画と自衛隊をめぐる」